



「認知症」をテーマに2日間開講

7月19日（金）・20日（土）第59回農村医学夏季大学講座を開催

イベント名	第59回農村医学夏季大学講座
メインテーマ	すべての人々に健康を～認知症とともによりよく生きる。～
開催日	2019年7月19日（金）、20日（土） ※スケジュール・プログラム別紙添付
会場	長野県厚生農業協同組合連合会 佐久総合病院（本院） 農村保健教育ホール 〒384-0301 長野県佐久市臼田 197 番地
イベント内容	1日目：基調講演、第28回若月賞授賞式・記念講演 2日目：講演、シンポジウム
受講料	一般 2日：3,000円 1日：1,500円 高校生以下 2日：1,000円 1日：500円 テキスト代を含む（税込）
申し込み	定員：400人 申し込み締め切り：7月12日（金） 申し込み方法：所定の申込用紙もしくは事務局あてメールでの申し込みとなります。
問い合わせ先	第59回農村医学夏季大学講座事務局 佐久総合病院 健康管理部 電話 0267-82-2677
主催・後援	■主催：JA 長野厚生連/JA 長野県組合長会/JA 長野中央会/JA 長野信連/JA 全農長野/JA 共済連長野/JA 長野健保 ■後援：JA 全厚連/日本農村医学会/日本成人病予防会/日本農村医学研究会/長野県/信濃毎日新聞社/SBC 信越放送/NBS 長野放送/TSB テレビ信州/abn 長野朝日放送/NHK 長野放送局/佐久医師会/佐久市/小海町/佐久穂町/川上村/南牧村/南相木村/北相木村

今年度のテーマは、近年社会的課題の一つでもある「認知症」とし、1日目の基調講演に現在福祉ジャーナリストとして活躍されている元 NHK 福祉ネットワークキャスターの町永 俊雄 氏を迎え、また同日には、全国の保健・医療分野で草の根的に活躍する個人・団体を表彰する若月賞の授賞式を開催いたします。今年度の若月賞は、水俣病訴訟支援・公害をなくする県民会議医師団団長（医師）の藤野 紘 氏（熊本県、現在 76 歳）と陸前高田市国民健康保険二又診療所所長（医師）の石木 幹人 氏（岩手県、現在 72 歳）の 2 人が受賞されます。2 日目には、認知症当事者、また認知症当事者を支える地域福祉関係者の講演やシンポジウムを予定しており、2 日間で認知症とどう向き合っていくかを考える講座になっています。

（報道各位から本件に関するお問い合わせ先）

第59回農村医学夏季大学講座について 健康管理部夏季大学事務局 TEL 0267-82-2677（直通）
第28回若月賞について 佐久総合病院秘書課 TEL 0267-82-3131（代表）



報道関係各位

プログラム 1日目 2019年7月19日(金)

時刻	プログラム
12:00	受付
12:45	開講式
13:00～14:10	<p>《講演》「認知症」の社会は どこまで来たのか ～メディアでどう伝え、社会はどう受け止めたのか～ 講師：福祉ジャーナリスト(元NHK福祉ネットワークキャスター) 町永 俊雄 氏</p> <p>この国の超高齢社会はこれからどうなっていくのか、高齢化に伴って認知症の増大する社会を私たちは、不安と怯えの中にしか描けないのでしょうか。「認知症」はすでに、認知症の枠内で語ることはできず、それぞれの認知症観と地域社会のあり方の再定義が必要です。</p> <p>メディアが伝えてきたここ10年余りの流れの中で、医療、介護、家族、当事者、社会へとリレーされるように手渡されてきた「認知症のバトン」を辿ります。</p>
14:10～14:30	休憩
14:30～15:00	若月賞授賞式
15:00～16:00	<p>《若月賞受賞講演》医学的に隠された水俣病被害の実態を明らかにしてきた49年間の取り組み 講師：水俣病訴訟支援・公害をなくする県民会議医師団団長 藤野 紘 氏</p> <p>1956年公式確認された水俣「奇」病は1959年熊本大学医学部研究班によって、「原因はある種の有機水銀化合物」とされた。その後、水俣病は「1953年に発生し、1960年に終息」。「患者数111人で過去の病気」とされた。しかし、それは汚染の一部であった。1968年9月の政府の公害病認定後、私は1970年より被害の実態を明らかにする活動に従事してきた。現在、行政認定患者2,282人を含む約7万人の被害者が救済されたが、汚染の全貌はまだ明らかにされていない。</p>
16:00～16:20	休憩
16:20～17:20	<p>《若月賞受賞講演》過疎地での医療展開と被災後の医療の復旧、超高齢社会への対応 講師：高田市国民健康保険二又診療所所長 石木 幹人 氏</p> <p>医師不足の中、病院の役割を見極め、超高齢社会を乗り越えるための医療の提供を模索しつつ改善途上にあった病院が、平成23年3月11日病院の全機能を失い陸前高田市の医療が完全に消滅した。日本中、世界中の支援を受けて約1年で機能を回復した。今後の超高齢社会に向け、健康寿命をのばすために医療介護職だけでなく住民も巻き込んだ活動が始まっている。</p>
17:40～19:10	交流会(参加費:2,000円) 自由参加



報道関係各位

プログラム 2日目 2019年7月20日(土)

時刻	テーマ
8:30～	受付
9:00～10:10	<p>《講演》DFC とはなにか ～RBAの視点から～ 講師：清山会医療福祉グループ代表 いずみの杜診療所医師 山崎 英樹 氏</p> <p>80年代末から国連の開発分野で登場した権利ベースのアプローチ（Rights Based Approach, RBA）は、本人が自らの権利に気づき、本来の力を発揮しながら人生を再構築できるように（エンパワメント）、本人との対話や交流を重ねながら環境を調整する（合理的配慮）という二つのことを、周囲の責任として求める。このRBAの視点から Dementia Friendly Community DFCは「認知症の本人が市民として参画し、貢献することが権利として大切にされ、推進される地域社会」と定義できる。</p>
10:10～10:30	休憩
10:30～11:40	<p>《講演》※タイトル未定※ 講師：地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター 栗田 圭一 氏</p>
11:40～12:30	昼食
12:30～15:00	<p>《シンポジウム》すべての人々に健康を～認知症とともによりよく生きる。～</p> <p>シンポジスト：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清山会医療福祉グループ代表 いずみの杜診療所医師 山崎 英樹 氏 ・地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター 栗田 圭一 氏 ・オレンジサロン hinatabocco 代表 春原 治子 氏、社会福祉法人ジェイエー長野会 教育顧問・特別養護老人ホーム ローマンうえだ 櫻井 記子 氏 ・特定非営利活動法人のぞみ 宅老所のぞみ 代表理事 伝田 景光 氏 ・社会福祉法人 名古屋市社会福祉協議会 名古屋市認知症相談支援センター 若年性認知症相談支援 コーディネーター 鬼頭 史樹 氏 <p>司会：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉ジャーナリスト(元NHK福祉ネットワークキャスター) 町永 俊雄 氏 ・佐久総合病院 診療部長 北澤 彰浩 氏
15:00～15:30	閉講式